

米パレクセル 国内メーカーの海外開発、欧米進出をサポート

CRO（臨床試験支援機関）の米パレクセル・インターナショナルのジョセフ・フォン・リッケンバックCEOは本紙に、国内メーカーが実施する海外試験の支援に力を入れていると説明した。「中小メーカーはこれまで、海外向けには新薬をライセンスアウトするしかなかったが、アウトソーシングを活用することで効率的に、自前でも開発することができるようになった」と指摘。欧米進出をめざす国内メーカーの開発支援などを通じ、日本での売上げ拡大に繋げたい考えを示した。

パレクセルはCROの世界大手で、日本では95年から事業を手掛けている。リッケンバックCEOは国内の厳しい市場環境などから「日本の製薬企業はもっとグローバルに進出していくことになる。日本ではこれまで、アウトソーシングの流れは緩慢だったが、それゆえにパレクセルにとってのチャンスも大きい」と語った。承認取得までの開発支援のほか、ITで試験業務の管理などを行う「eクリニカル・ソリューション」といった新サービスも徐々に浸透し始めているとの認識を示した。

また、日本法人の折原康治代表取締役は、これまでは「外資のグローバルスタディを中心に（業績を）拡大してきたが、国内メーカーのローカル、（アジア地域の）リージョナル試験のサポートにも力を入れている」と説明。特に、従来であれば資金力などの問題から、自前での海外進出に踏み切れなかった中小メーカーの開発支援に注力し、「欧米進出をサポートしていきたい」としている。